



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和3年9月1日

9月号

横浜市立横浜深谷小学校

校長 角井 治朗

相手の立場に立って考え、行動する力

校長 角井 治朗

夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。臨時休業、分散登校等、不安を抱えての学校再開となりましたが、だからこそ一層、お互いに顔を合わせられる喜びを強く感じます。今年の夏休みは、東京オリンピックで活躍する選手のうれしいニュースと感染症の広がりを伝えるニュースが次々と届き、喜びと不安が入り混じる複雑な気持ちで過ごしました。また、天候の面でも猛暑が続いたかと思うと連日続く雨や気温の変化に戸惑うこともあり、いろいろな意味で異例の夏休みとなりました。豪雨等で被害にあわれた方々にはお見舞いを申し上げるとともに、それぞれの子どもたちにとって、この夏休みが大切な時間になっていればと願わずにはいられません。また、保護者の皆様におかれましては、学校再開直前で様々な予定が変更される中、ご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、先ほど触れた東京オリンピックですが、開催そのものの賛否が話題になり、いざ開催が決まっても、どのようなオリンピックになるのか、不安が広がる中での開催となりました。それでも競技が始まり、次々と伝わってくる選手の活躍の様子は多くの人に勇気や感動をもたらしたことは間違いありません。そして、そのような選手の活躍とともに目に留まったことの一つに、大会を支えるスタッフやボランティアの活躍がありました。中でもひとときわ心に残ったエピソードが、競技会場を間違え、困っていた選手を助けた大会スタッフの行動です。陸上競技に出場するはずだったジャマイカ代表のパーチメント選手が到着したのは水泳競技の会場でした。途方に暮れたパーチメント選手は近くにいたスタッフのティアナさんに助けを求め、お金を借りてタクシーに乗ることで無事、競技に間に合い、最後にはなんと金メダルを獲得しました。金メダル獲得後、パーチメント選手はあらためてティアナさんのもとを訪れ、借りたお金を返し、感謝の思いを伝えたということですが、ティアナさんは「相手の立場に立って考えて行動しただけで、こちらが感謝の思いでいっぱいです。」と話されていたそうです。

今般の感染症拡大とともに、その対応についても、人によって様々な感じ方や考え方が混在しており、それが社会全体に大きな不安となって広がっているように感じます。ですがこのような時こそ、「相手の立場に立って考え、行動すること」が求められるように思います。本校としても、これまでの感染症対策ガイドラインのレベルを一段階上げて、教育活動を再開いたしますが、同時に、こうした感じ方、考え方にかかわる心のケアについてもていねいに取り組んでいきたいと考えています。子どもたちの笑顔と日常をしっかりと守り、安全で安心な学習環境づくりに努めるとともに、子どもたちが正しい知識を身に付け、考え、判断し、行動する力を身に付けたり、思いやりの心をもったりすることができるように努力をしていきますので、引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。